

令和3年度第1回 江別市子ども・子育て会議要旨

日 時：令和3年8月11日（水）14時～

場 所：江別市民会館21号室

出席者：江別市子ども・子育て会議委員8名

藤野友紀会長、宮崎善昭副会長、石塚誠之委員、内館佳子委員、上田藍委員、
久保裕紀委員、寺田さゆり委員、山崎啓太郎委員

江別市（事務局）8名

白崎健康福祉部長、東子育て支援室長、宮崎子育て支援課長、天野子ども育成課
長、野本子ども育成課給付係長、本田子育て支援課子ども家庭係長、今野子育て
支援課子ども家庭係主査、福岡子育て支援課会計年度任用職員

傍聴者：1名

1 委嘱状交付・委員紹介

○宮崎子育て支援課長

委員14名中8名の参加報告。

2 白崎健康福祉部長挨拶

3 議事

○藤野会長

次第3の議事に入ります。（1）の報告事項①『保育施設入所選考基準について』、事務局から説明をお願いします。

○野本子ども育成課給付係長

報告事項1 保育施設入所選考基準について、ご説明いたします。

資料1をご覧願います。

「1の概要」についてですが、特定教育・保育施設における保育の利用については、入所選考基準により、その保育の必要性の度合いを点数化し、点数の高い順に、希望する施設への入所を調整しています。入所選考基準における優先利用の考え方については、児童福祉法及び子ども・子育て支援法を根拠として、国が示す基本的な考え方に基づき、利用調整を行う市町村が決定しています。

江別市においても、これまで「項目」や「点数」の決定にあたっては、国からの技術的助言となる通知等に留意した上で、市の所管部門で決定していましたが、今後については、

子育て世帯にとって大きな関心事である保育施設入所の選考基準に際しては、市民参加の観点から、変更を行う際には、子ども・子育て会議にて意見聴取したうえで決定したいと考えていますので報告します。

次に「2の江別市保育施設入所選考基準表」についてですが、次ページ以降に見開きで現行の基準表を掲載していますので、ご覧ください。

基本的には、呼び方は自治体によって若干変わるものの、保護者の保育を必要とする事由毎に点数を設定している1の「基礎点数」部分と、家族の状況や保育の代替手段が他に求められるかといった状況に応じて点数を設定している2の「調整点数」部分で構成されています。

最後に「3のその他」についてですが、参考に道内の12市に対し、保育所入所基準の決定方法について、アンケート調査を行い、10市から回答を得ましたので報告しますと、10市中2市（旭川市・釧路市）が、入所選考基準の決定について子ども・子育て会議にて意見聴取を行っているという結果でした。

現在、各市の入所選考基準を収集し、今後、近隣市の基準と比較・分析のうえ、江別市の入所選考基準に変更すべき内容が生じた場合は、子ども・子育て会議にて意見聴取させていただく予定としています。

なお、今年度は意見聴取の予定はありません。以上です。

○藤野会長

ありがとうございました。ただいまの説明について質疑をお願いします。

○石塚委員

入所施設の基準表について、他市町村を調べると、江別市の基準表が一番上の方にあり、江別市の施設に入られる方がたくさんいて、そのなかですごく関心がある方が多いと見させていただきました。29年、31年の表も江別市のほうで公開されているように見させていただきました。これから他市町村と比較をするということですが、もし江別市としてこれから加点していきたい等なにか考えがあれば教えてください。もし特になければ検討事項として調べてみたいと思いました。よろしくをお願いします。

○天野子ども育成課長

全部の市町村を調査しているわけではありませんが、基準表は、保育の必要性を考える基礎点数、それから世帯状況等の調整点数に分かれており、当市については保育の必要性を考える基礎点数に若干ウエイトをおいている傾向があります。基礎点数の内容については、基本は国で示されている事項ですが、さらにある程度細分化して評価すべきではと考えています。さらに調整点数については、一定程度市町村の裁量で整理できる部分でありますので、他市と比較を行いつつ江別にとって必要なものは何かを考えて整理していくことが必要だと考えています。

○藤野会長

石塚委員よろしいですか。

○石塚委員

大丈夫です。

○藤野会長

他に意見等ありますか。

よろしいですか。では、質問等は出尽くしたようですので、次の議題に移りたいと思います。次に次第3議事の報告事項②『大麻泉小学校放課後児童クラブについて』、事務局から説明をお願いいたします。

○今野子育て支援課子ども家庭係主査

資料2 大麻泉小学校区放課後児童クラブについてをご覧ください。

大麻泉小学校区の放課後児童クラブが令和3年度をもって閉会することから、現在、令和4年度に向けて新たな開設場所等を検討しています。

1 現在開設中の放課後児童クラブの概要について説明します。

(1) 開設者学校法人あけぼの学園、(2) 名称大麻あけぼの放課後児童クラブ、(3) 開設場所 江別市大麻栄町1番地の12(認定こども園あけぼの内)(4) 定員 30名、(5) 登録児童数 34名(令和3年4月1日現在)、(6) 閉会予定日 令和4年3月31日

2 令和4年度受入れ体制(1) 開設場所につきましては、大麻泉小校区内で検討中、(2) 運営団体につきましても現在検討中となります

○藤野会長

ありがとうございました。ただいまの説明について質疑をお願いします。

○宮崎副会長

大麻泉小学校区の放課後児童クラブが閉会するとのことですが、どういう理由で閉会するのですか。

○宮崎子育て支援課長

現在大麻あけぼの放課後児童クラブで勤務している放課後児童支援員の方が3名いるのですが、ご高齢になり、なかなか次の後任の方が見つからないため閉会すると聞いています。

○宮崎副会長

わかりました。

○宮崎子育て支援課長

補足になりますが、大麻泉小学校区の放課後児童クラブの今後の動きについては、次回の子ども・子育て会議にて逐次情報提供させていただきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

○藤野会長

閉会するのが今年度末で、来年度当初から新しいクラブを開所できるように準備していくということでもいいですか。

○宮崎子育て支援課長

そのとおりです。

○藤野会長

他に意見等ありますか。

よろしいですか。では、質問等は出尽くしたようですので、次の議題に移りたいと思います。次第3議事の協議事項『教育・保育施設に係る利用定員の設定及び確認について』、事務局から説明をお願いいたします。

○野本子ども育成課給付係長

それでは、資料3「教育・保育施設に係る利用定員の設定及び確認について」をご説明させていただきます。資料2ページをお開き下さい。

子ども・子育て支援法に基づく確認制度と利用定員に関しては、これまでの会議においても説明をしておりますが、確認を含め簡単に概要をご説明させていただきます。

子ども・子育て支援法では、北海道や江別市の認可を受けた教育・保育施設及び地域型保育事業の設置者からの申請に基づき、江別市が、子ども・子育て支援事業計画に照らし、保育を必要としない満3歳以上の幼児が受ける1号認定、保育を必要とする満3歳以上の幼児が受ける2号認定、保育を必要とする満3歳未満の乳幼児が受ける3号認定という認定区分ごとの利用定員を定めることとされており、利用定員を設定する際には、子ども・子育て会議において意見を聴取する必要があると規定されています。

認可制度と確認制度の関係については、ページ中段にある図をご参照ください。

次に3ページをお開き下さい。

令和2年度第3回の江別市子ども・子育て会議において、保育所の公募に係る選考等について報告いたしました。公募で採択した5事業者が開設する予定の保育所について、利用定員を設定し、令和3年11月に1施設、令和4年4月に4施設の開設を予定しています。

まず、令和3年度、利用定員を設定する予定の施設は、1の(1)の表にある、江別桃の花保育園の1施設でございます。

令和3年11月に開園し、初年度は0歳児～1歳児のみの受け入れを行うため、3号認定のうち1～2歳児が17名、0歳児3名の利用定員を設けるものであります。

次に、令和4年度、利用定員を設定する予定の施設は、ページ中段（2）の表にある、memorytree 西野幌保育園、夢ふうせん東野幌保育園、認可保育園みらい、ラブクローバーの保育園江別の4施設であり、そのほか利用定員の増員を行う施設が、江別桃の花保育園の1施設ございます。

1行目のmemorytree 西野幌保育園は2号認定56名、3号認定のうち1～2歳児が28名、0歳児が6名、計90名の利用定員を設けるものであり、2行目、3行目の夢ふうせん東野幌保育園と、認可保育園みらいは、それぞれ2号認定24名、3号認定のうち1～2歳児13名、0歳児3名、計40名の利用定員を設けるものであり、4行目のラブクローバーのほいくえん江別は2号認定39名、3号認定のうち1～2歳児18名、0歳児3名、計60名の利用定員を設けるものであります。5行目の江別桃の花保育園は、令和3年度に0～1歳児について20名の利用定員を設定した施設が、令和4年4月からは0～5歳児までの全年齢の受け入れを行う予定であるため、2号認定49名、3号認定のうち1～2歳児1名、計50名の利用定員を増員し、70名の利用定員とするものでございます。また、既に設定した利用定員の変更を行う施設が、ページ下段（3）の表にある認定こども園あけぼのの1施設でございます。本施設は、保育の需要が高まっていること等から、令和2年度より計画的に2号認定の増員と、1号認定の減員を行っており、令和4年度は2号認定4歳児を8名増員、1号認定4歳児を8名減員するものです。

4ページをお開きください。令和4年度における利用定員の見込は、ページ上段の表のとおり、新設する5か所、新設以外の幼稚園、保育所、認定こども園及び地域型保育施設36か所、企業主導型保育施設5か所、合計46施設において、1号認定1,711名、2号認定1,156名、3号認定のうち1～2歳児773名、0歳児218名、合計3,858名となります。参考までに、令和3年度との比較ですが、合計で315名の増員となる見込みであり、その内訳は新設する保育所5園で、300名、令和3年7月に開園した大麻のココルクえべつ内にあります企業主導型保育施設1園の地域枠分で15名でございます。

次に、ページ中段、3の表をご覧ください。令和4年度の利用定員と、第2期江別市子ども・子育て支援事業計画との比較についてであります。利用定員の見込①と、計画上の提供体制③を比較すると、1号定員は計画よりも6名少なく、2号定員は計画よりも、194名多く、3号定員のうち1～2歳児は48名、0歳児は17名、計画よりも多くなる見込みです。

次に、ページ下段、4の表をご覧ください。令和4年度の利用定員と、令和4年度の量の見込みの比較であります。2号定員は102名、3号認定の0歳児は30名、利用定員が量の見込みよりも多くなりますが、3号認定の1～2歳児は依然として52名、利用定員が不足する見込みです。不足する定員については、1～2歳児を定員以上に受け入れることがあるほか、いわゆる育児休業取得狙いなど、入所の意思が高くない者の申請も一定数あることから、実質的には対応が図られるものとして判断しています。

なお、4ページ下段に記載の説明になりますが、江別市の待機児童の多くは0～3歳児であるものの、保育所の新設にあたっては4～5歳児の定員設定も必要であるため、2号認定については一時的に量の見込みを超えた提供体制を確保することとなりますが、今後、

定員と入所者数に恒常的に乖離のある施設については、定員の調整を検討し、市内全体で利用定員の適正化を図っていくこととします。

また、就学前人口が2年連続で計画の推計値を大幅に上回っていることから、江別市子ども・子育て支援事業計画における各種指標について、計画の中間年である令和4年度に見直しを行う必要があると考えています。

以上が、資料3の説明です。

○藤野会長

ありがとうございました。ただいまの説明について質疑をお願いします。

○石塚委員

2年連続で計画の推計値を大幅に上回っているということでそういった傾向をする方がすごく活用される方が多いと思うのでそれ自体に問題ないと思うのですが、量の見込みをどのように出したのか教えていただければ、差異がどれくらいこれで出るのかさらに検討できるので教えていただければと思いました。

○野本子ども育成課給付係長

量の見込みについては、人口に保育所の申請率を掛け合わせて推計しています。人口については、第2期の子ども・子育て支援事業計画の見込みよりもかなり多い状況になっていますので、令和2年度の実績値をもとに計画上の人口を補正した推計値を使っており、申請率については、前年度の申請率に過去4年間の申請率の伸び率を掛け合わせたものを使って推計しています。

○石塚委員

今の計算だと、人口の中で何%ぐらいなのか教えてもらえますか。

○野本子ども育成課給付係長

令和2年度については、年齢ごとに申請率が異なるのですが、0歳児が人口の30.0%、1歳児が57.9%、2歳児が55.1%、3歳児が43.4%、4歳児が39.2%、5歳児が36.1%として推計しました。

○藤野会長

他に意見等ありますか。

○内館委員

利用する子どもの定員と関係ないかもしれないですが、今ある施設とか事業者とかでも支援する方の人数がなかなかなくて大変だと思いますが、定員が増えることによって保育士の人数というのは今の状況では江別市で確保されていますか。

○天野子ども育成課長

新たな保育士の確保が必要となりますが、確か100人前後必要になるという見込でした。これに対して募集してきた事業者の方々には、SNS等をつかって募集していくという事業者独自の取組みを行ったと聞いております。当市においても保育士等の人材バンクによる登録促進とか、昨年度から保育士の奨学金の一部支援する制度や、上限はありますがアパート借り上げ部分の補助等、市内で働く保育士を支援しようとする補助制度を他市に負けずに立ち上げたところです。そういった事業者の努力と市の支援の中で必要とする保育人材については確保していこうと考えています。

○内館委員

わかりました。

○藤野会長

他に意見等ありますか。

○宮崎副会長

新しい施設ができることは待機児童を減らすためには必要だと理解します。ただ、現場にいる者として、施設が増えると保育士も必要になる。江別市としてどのような施策の中で保育士を今後とも確保しようとしていくのか、もちろんそれぞれの施設が確保していかなければならないことは確かですが、江別市として制度そういうものがある。それを保育士になろうとしている人たちにどのようにアピールしていくのか、特に札幌圏が多いと思いますが、江別から札幌ではなく、札幌から江別に流れていくような施策が必要なのではないか。現在行っている施策は単身で来る方の下宿料金の補助とか奨学金の返済などいくつかあるが、まだまだPR不足ではないか、もっと何らかの形で保育士養成学校等に対してアピールをする方法がないか。学生が事前にそういった情報をわかっていたら、江別市に流れてくるのではないかと。

○天野子ども育成課長

以前から江別市については、子育て世帯の急激な転入増により、待機児童の解消が課題となっています。あわせて保育人材の確保を両輪で対策を考えなければならない。昨年度立ち上げた他市に見劣りしない制度を導入したほかに、保育士として働きたい方のために現場を知ってもらおうと、保育士志望の方にバスで市内事業所を回るツアーを企画していました。新型コロナウイルス感染症の流行により、バスの中の密を解消することが難しいことから中止としました。その代わりに、道内の養成校全校に新規で立ち上げた補助制度をPRするためパンフレットの配布を行いました。今年も同じく養成校に向けて江別市の取組みをPRする予定です。

また、昨年度は石狩圏域の広域圏の取組みの中で、札幌市が開催した保育施設の就活イベントで、江別市も特別に加わり、市内の1事業所が参加しています。今後も、保育士人材の確保については臨機応変にあらゆる取組みを考えていきたいと考えております。

○宮崎副会長
わかりました。

○藤野会長
他にいかがですか。

よろしいですか。では、質問等は出尽くしたようですので、次の議題に移りたいと思います。

次に、次第4『その他』について、委員の皆さんから何かありますか。
大丈夫ですか。特になければ、事務局から何かありましたら、お願いします。

○宮崎子育て支援課長
今回の会議の日程についてですが、委員の任期が10月末までであることから、各団体等に新しい委員の推薦を依頼し、公募委員につきましても新たに市民公募を行った上で、11月中に開催したいと考えております。

○藤野会長
委員の皆さん、よろしいでしょうか。
それでは、本会議で予定している事項についてはすべて終了いたしました。今回の会議は、委員改選後であるため、顔ぶれが変わっていることと思いますが、今後も計画の進捗を見守っていただければと思います。